



平成 29 年 2 月 10 日

会 報 第 6 号

会津「The13」事業協議会 会津創生シンポジウム

発行：会津「The13」事業協議会

事務局 〒965-0873 福島県会津若松市追手町 5 番 36 号

TEL 0242-29-1910 FAX0242-29-5916 E-mail g-ryohei@adoken.co.jp

会津創生シンポジウム開催される！

この度のシンポジウムは、会津「The13」事業協議会が会津の豊富な森林資源を活用した木質バイオマスボイラー熱供給事業、CLT 用ラミナ供給事業による循環型地域経済づくりに対する検討結果を基に、会津創生実現へのアクション「今何をしなければいけないか」に焦点をあて、記念講演、パネルディスカッションを産官学が一体となり開催しました。

当日、天候不順にもかかわらず、県内外より 460 名様(入場予定 360 名)のご来場があり本プロジェクトへの関心度の高さを実感することができました。

記念講演をいただいたプラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 氏、パネリストの皆様、コーディネータ 福留 功男 氏、ご来場いただいた皆様へこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

ありがとうございます。

本シンポジウムの討議結果をスタートに、13 市町村の経済、行政が一丸となり「会津創生」プロジェクトの階段を一段ずつ登り始めたと確信いたしております。

来年の戊辰 150 周年の記念すべき年に向け、今まさに「会津創生」が産声を上げました。

1 開催日

日時：平成 29 年 2 月 8 日(水)13:15～16:30

場所：会津大学 講堂

1. 開 会

2. あいさつ 会津「The13」事業協議会 理事長 唐橋 幸市郎 氏
会津若松市長 室井 照平 氏

4. 記念講演 演題「プラチナ社会における森林資源のフル活用」
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 氏

5. パネルディスカッション

テーマ 「循環型地域経済の基礎となる森林資源フル活用プロジェクトの意義」

パネリスト 経済産業省 産業技術環境局 局長 末松 広行 氏
東京大学 名誉教授 有馬 孝禮 氏
福島県企画調整部政策監(兼)企画推進室長 櫻井 泰典 氏
オーストリア大使館商務部上席商務官 ルイジ・フィノキアーロ 氏
銘建工業(株) 代表取締役 中島 浩一郎 氏
内閣府地域活性化伝道師 菅家 洋一 氏

(会津「The13」事業協議会 副理事長)

コーディネーター 福留 功男 氏

(エグゼクティブプロデューサー、福島県しゃくなげ大使)

6. 閉 会 会津「The13」事業協議会 副理事長 原 幸二 氏

2 あいさつ

1. 会津「The13」事業協議会 理事長 唐橋 幸市郎 氏の挨拶



エネルギー、資源が少ない我が国にとって循環型社会の構築は重要な課題であると認識している。

歴史的にも太平洋戦争等のエネルギー争奪戦があったとのお話があった。

2. 会津若松市長 室井 照平 氏の挨拶



会津の森林資源活用による林業活性化、雇用創出の重要性を認識しており、会津若松市では木質バイオマス発電事業に取り組んでおり、未利用材の活用を進めている。福島県 CLT 工場検討を含め大きな転換期を迎えている旨お話があった。

スケジュール

会津創生シンポジウム

日時:平成 29 年 2 月 8 日(水)

場所:会津大学 講堂

内容

記念講演:演題「プラチナ社会における

森林資源のフル活用」

プラチナ構想ネットワーク

会長 小宮山 宏 氏

(三菱総合研究所理事長、

国立大学法人東京大学

第 28 代総長)

パネルディスカッション

テーマ

「地域循環経済の基礎となる森林
資源フル活用プロジェクトの意義」

パネリスト

経済産業省 産業技術環境局

局長 末松 広行 氏

東京大学 名誉教授 有馬 孝禮 氏

福島県企画調整部政策監

兼企画推進室長 櫻井 泰典 氏

オーストリア大使館商務部

上席商務官ルイジ・フィノキアーロ 氏

銘建工業(株)

代表取締役 中島 浩一郎氏

内閣府地域活性化伝道師

菅家 洋一 氏

(会津「The13」事業協議会副理事長)

コーディネーター

エグゼクティブ・プロデューサー

福留 功男 氏

(福島県しゃくなげ大使)

3 記念講演



記念講演 演題 「プラチナ社会における森林資源のフル活用」
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 氏
(三菱総合研究所理事長 東京大学 第 28 代総長)

「プラチナ社会における森林資源のフル活用」をテーマにプラチナ社会とは・・・森林資源のフル活用までを歴史的な視点、グローバルな視点とあらゆる方向から実例を持って分かりやすくお話をいただいた。

人類史の転換期、それは経済活動全てにおける「飽和」がキーワードである・・・とのお話から、自動車販売台数を例に飽和＝転換期の説明をいただいた。

社会と人との係わり合いから物事が始まる・・・エネルギーも飽和に達し消費量は省エネにより減少し始めており、今まさに転換期に来ている。その中で、地域の森林資源を活用した地域経済、雇用創出はプラチナ社会の林業ビジョンと言えるとのお話があった。

4 パネルディスカッション



パネルディスカッション風景



パネラーの皆様



経済産業省 産業技術環境局
局長 末松 広行 氏



東京大学
名誉教授 有馬 孝禮 氏



福島県企画調整部政策監(兼)企画推進室長
櫻井 泰典 氏



オーストリア大使館商務部上席商務官
ルイジ・フィノキアーロ 氏



銘建工業(株) 代表取締役
中島 浩一郎 氏



内閣府地域活性化伝道師
菅家 洋一 氏
(会津「The13」事業協議会 副理事長)



コーディネーター 福留 功男 氏
(エグゼクティブプロデューサー、福島県しゃくなげ大使)

第一線でご活躍の産官学 6 名のパネリストをお迎えし、会津創生に不可欠な森林資源フル活用プロジェクトの意義について、コーディネーター 福留氏の軽快なトークでパネルディスカッションが始まった。

内閣府地域活性化伝道師(会津「The13」事業協議会 副理事長) 菅家 洋一 氏から会津「The13」事業協議会発足の経緯の説明があり、事業会の活動、検討内容から林業を取り巻く国内状況、CLT、川上 ~ 川中 ~ 川下の詳細へディスカッションが進んでいった。

ルイジ・フィノキアーロ 氏からは、オーストリアの森林・林業、エネルギーの各状況をお話いただき、オーストリアの先進性を感じることで森林資源活用はエネルギー産業として新基軸になる事を確信した。

会津 13 市町村の経済界、行政が一体となって地域に適したコンビネートを実施する事で問題を解決し、枯渇しない循環型産業の創生が可能である。また、永続的な活動の為に雇用を創出し人を育てる事も重要である。

最後に経済産業省 産業技術環境局 局長 末松 広行 氏より、「エリアがまとまれば資源量の調査を含め行政も支援しやすい。」とのお話があった。

5 閉 会



会津「The13」事業協議会
副理事長 原 幸二

会津「The13」事業協議会 副理事長 原 幸二 より、来場の御礼と、会津「The13」事業協議会の活動と意義のご理解をお願いした。

